

平成30年度 第61回関東高等学校体育大会千葉県予選サッカーの部 総評

平成30年4月30日（月）から5月13日（日）までの日程で、関東高等学校体育大会サッカーの部千葉県予選が行われた。32チームが千葉県代表の2枠をかけてトーナメント方式で試合を行い、優勝は日体大柏高校、準優勝は習志野高校、3位は東京学館浦安高校、専修大学松戸高校という結果に終わった。日体大柏は5試合1失点、準優勝の習志野も決勝まで1失点と、特に守備が印象に残る大会となった。両チームともボールを失った瞬間の「攻撃から守備」への切り替えが早く、「相手がボールを保持する」守備の局面では、全員がハードワークし、ポジションバランスを整えることが徹底されていた。

大会全体を通じて、守備が徹底され、奪ったボールを早めに前線に供給する堅守速攻型のチームが多かった。チームのゲームモデルがはっきりしている分、戦術がタスク化され、選手は余計なことを考えずにシンプルにプレーできる。攻守のアクションが早いスリリングなゲーム展開が多く見られた。

一方で、「守備から攻撃」への切り替えの質、「自分たちがボールを保持している」時のプレーの質には課題がある。奪ったボールをすぐに失ってしまう場面、簡単なミスでボールを失ってしまう場面が多く見られた。そのような中、中央学院高校のように、個人技術が高く、プレッシャーの中でも良い判断をし、意図するプレーができていたチームもあった。千葉県の高校サッカーのさらなるレベルアップのためにも、状況に合わせて戦術的判断ができる選手を育てていくこと、プレッシャーの中でも技術を発揮できる選手を育てていくことが、大切だろう。

今大会は、日体大柏の2連覇によって幕を下ろした。大会の運営については、会場役員や審判、記録の方々を始め、多くの方々のご協力によって進められた。大会運営に携わっていただいた全ての方々に感謝の意を表すとともに、日体大柏と習志野の関東の舞台での活躍を期待し、総評とさせていただきます。

専修大学付属松戸高等学校 野村 太祐